平成３０年度全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえた今後の改善方策について

Ⅰ　調査結果にみる本県の課題及び結果の要因

１　学力状況

（１）小学校：国語は全国平均並みであるが、算数は全国との差が拡大した。

（２）中学校：全科目で全国平均を下回り、特に活用型のＢ問題で全国との差が大きい。
小学校６年時の全国平均と比較すると、全国との差が拡大した。

※Ｈ２７(小6)２８位(全国比 －１．９%) → Ｈ３０(中3)４０位(全国比 －５．９%)

２　学習状況

（１）落ち着いた学習環境づくり

・落ち着いて学習できていると回答する学校の割合が、中学校で全国平均を下回った。

※学校の授業で、私語が少なく落ち着いた雰囲気の中で学習ができていると回答した学校の割合

中３：８７．８%（全国９４．６%）

・管理職がリーダーシップを発揮し、教員の意識改革を進め、学校全体で指導する体制が不十分である。

※校長が、授業をほぼ毎日見て回っていると回答した学校の割合

小６：５８．０%（全国７０．４%）、 中３：２８．８%（全国４８．１%）

（２）授業改善

・算数・数学の授業がよく分かると回答した児童生徒の割合が全国平均を下回った。

※算数・数学の授業内容はよく分かると回答した児童生徒の割合

小６：８２．５%（全国８３．４%）、 中３：６７．６%（全国７１．０%）

・児童生徒が主体的に活動する授業改善が進んでいない。

※話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると回答した児童生徒の割合

小６：７６．９%（全国７７．７%）、 中３：７５．９%（全国７６．３%）

（３）学習習慣の定着

・中学校では、小学校６年時と比較し、授業以外に１時間以上勉強している生徒の割合が減少し、全国平均を下回った。

※普段、１時間以上勉強すると回答した生徒の割合

Ｈ２７(小6)６６．１%(全国６２．７%) → Ｈ３０(中3)６０．４%(全国７０．６%)

（４）生活習慣の改善

・テレビやゲーム、インターネットをしている児童生徒の割合が全国平均を上回った。

※放課後に、家でテレビやゲーム、インターネットをして過ごしていると回答した児童生徒の割合

小６：８２．９%（全国８１．０%）、 中３：７９．７%（全国７７．３%）

３　結果の要因

（１）　特に、中学校において、「岡山型学習指導のスタンダード」に基づいた、落ち着いた学習環境づくりや授業改善が十分に行われていないことと、「家庭学習のスタンダード」に基づいた、家庭学習時間の拡充や生活習慣の改善が進んでいない。

（２）　全ての小・中学校で、その学年で身に付けるべき学習内容がどの程度身に付いたかを１１月頃に把握し、その年度末までに確実に身に付けさせる取組を平成２８年度までは行っていたが、昨年度はその取組が不十分であった。

Ⅱ　今後の取組の方向性

１　授業改善と学習習慣の定着を図る取組の充実

（１）　中学校において、「岡山型学習指導のスタンダード」に基づいた授業を全ての教員が行うよう、市町村教委や管理職に対し、指導を徹底する。

　また、経年的に正答率に改善が見られない学習内容や活用型のＢ問題の指導資料を積極的に活用するよう、授業改善研究会等を通じて指導する。

　更に、学力・学習状況調査の結果から、成果の見られた学校の優良実践を研修会等で県内に普及する。

（２）　全ての生徒が１時間以上家庭学習をするよう、「家庭学習のスタンダード」を基に、校内研修で、家庭学習につながる授業改善や宿題の出し方、点検評価方法に関して共通理解を図り、全教員が統一した取組を行うよう、市町村教委や管理職等に指導を徹底する。

２　学力定着状況の把握と改善の徹底

（１）　１１月頃に、全ての小・中学校において、身に付けるべき学習内容がどの程度身に付いたかを過去の全国調査問題を活用して調査し、結果を分析させる。

（２）　その結果を受け、各学校に対し、３学期に県教委作成の復習用プリント教材集等を活用して、課題のあった学習内容を復習するよう指導する。